

種々なる肺感染症に対する KW-1062 の使用経験

長浜文雄・山本征司・安田真也
 中林武仁・小六哲司・斎藤孝久
 国立札幌病院・道がんセンター呼吸器科

新 Aminoglycoside 系抗生物質¹⁾ KW-1062 は、同系の Gentamicin に比して毒性が少なく注目されているものである。以下本剤の臨床的研究成績を報告する。

I. 対象ならびに検討方法

すでに CBPC, SBPC, GM, CET 等の種々の抗菌剤を使用し、いずれも多少とも臨床効果の得られたものの、遂にはそれら薬剤に無効と考えられた難治性肺感染症 9 症例 (汎細気管支炎, 肺結核, 両肺巨大のう胞性肺気腫, 肺線維症各 1 例, じん肺症 2 例, 肺癌 3 例) について検討した。喀痰中細菌は, *Ps. aeruginosa* 4, *Kl. pneumoniae* 2, Normal flora 2 および *My. tuberculosis* 1 であった。

KW-1062 は 1 回 40mg を 1 日 3 回または 1 回 60mg を 1 日 2 回筋注にて 5~12 日間投与した。臨床効果は、胸部 X-P 所見, 自覚症状の改善および血液所見, 喀痰中細菌の推移より検討し著効, 有効, やや有効, 無効と判定した。

II. 臨床成績

難治性肺感染症 9 症例に KW-1062 を 1 日 120 mg (分 2~3 回), 5~12 日間筋注し, 著効 1, 有効 2, やや有効 3, 無効 3, 有効率 66.7% の結果を得た (Table 1)。

代表的症例につき以下述べる。

症例 1 Y. M. ♂, 45 歳, 汎細気管支炎。

本年 3 月初旬より感冒感, 咳嗽, 黄色痰, 時に 38.0°C 至の発熱あり, 3 月 12 日当科入院。胸部 X-P 所見上両肺野とくに右下肺野に米粒ないし豌豆大のほぼ円形の結節性軟影の撒布像を認め, 12,000 台の白血球増多, 喀痰中 *Ps. aeruginosa* 無数証明された。Minocycline, CB-PC 等を使用するも喀痰量, 喀痰中細菌, 胸部 X-P 所見に変化を見なかったが, KW-1062 を 1 回 40 mg, 1 日 3 回筋注を 5 日間継続したところ, その 3 日目より喀痰量の著減, 黄色だった喀痰が白色化し, 胸部 X-P 所見上の撒布性結節影の著しい減少をみ, 予後, 平温に経過し, 白血球増多も見られない。「著効」と判定した。

Table 1 Cases treated with KW-1062 on incurable respiratory tract infection

Case	Name Sex Age	Diagnosis	Organisms detected in sputum	Daily dose (mg) (Duration days)	Clinical course	Side effects	Res- ponse
1	Y. M. ♂ 45	Panbronchitis	<i>Ps. aeruginosa</i> ‡ → -	40×3(5)	Improvement of chest X-ray findings. Volume of sputum ↓ Bacteria disappeared	None	Ex- cellent
2	M. K. ♂ 67	Respiratory tract inf. (Pneumoconiosis)	<i>Kl. pneumoniae</i> ‡ → -	40×3(12)	Improvement of stridor short breath and fever	None	Good
3	Y. K. ♀ 62	Respiratory tract inf. (Lung cancer)	<i>Kl. pneumoniae</i> ‡ → ‡	40×3(11)	Fever subsided	None	Fair
4	H. K. ♂ 54	Respiratory tract inf. (Lung cancer)	<i>Ps. aeruginosa</i> ‡ → ‡	40×3(8)	Unchanged	None	Poor
5	H. K. ♂ 54	Respiratory tract inf. (Lung cancer)	<i>Ps. aeruginosa</i> ‡ → -	40×3(6)	Fever began to subside gradually. Bacteria disappeared	None	Fair
6	K. A. ♂ 71	Pulmonary tuberculosis	<i>My. tuberculosis</i> Gaf. 7	40×3(8)	Unchanged	None	Poor
7	E. H. ♂ 60	Respiratory tract inf. (Giant pustule in lungs)	<i>Ps. aeruginosa</i> ‡ → -	40×3(8)	Improvement of dyspnea Sputum decreased	None	Good
8	M. I. ♂ 50	Respiratory tract inf. (HAMMAN-RICH Syndrome)	Normal flora + → +	40×3(12)	Unchanged	None	Poor
9	M. K. ♂ 67	Respiratory tract inf. (Pneumoconiosis)	Normal flora + → +	60×2(6)	Volume of sputum ↓ Improvement of subjective symptoms	None	Fair

症例 6 K. A. ♂, 71 歳, 肺結核。

左肺 S₃ に 4.0×5.0cm 大の均等性膿影が X-P 上に認められ, 肺癌または肺膿瘍疑として当科入院。入院時発熱 38.0°C, 直ちに KW-1062 を 1 回 40mg, 1 日 3 回筋注, 8 日間連用したが, 下熱せず, その後喀痰中に結核菌を証明し, 抗結核治療に切換えた。

症例 7 E. H. ♂, 60 歳,

両肺巨大のう胞性肺炎腫兼肺感染症: 40 歳代より胸部 X-P 上両肺巨大嚢胞を指摘されていたが, 時々 38.5°C 至の発熱, 黄色痰, 特発性気胸等を繰返すたびに病状増悪して入院を繰返していたが, 最近の 2 年間は常時酸素吸入中である。この間感染症状併発のたびに種々の抗感染性抗生剤が使用され, 一過性に自覚症の軽快をみていた。本年 4 月 1 日頃より体温 38°C 至, 左気胸, 黄色喀痰, 時に血液混入痰 1 日 200~275ml の喀血あり, *Ps. aeruginosa* 多数証明。4 月 7 日より KW-1062 を 1 回 40mg, 1 日 3 回筋注開始, 4 月 16 日までの間 8 日間実施したところ, 体温平温化, 喀痰量 1 日 150~175ml に減少し, 血液の混入も見られなくなり, 呼吸が著しく楽になったと自供している。なお喀痰中の *Ps. aeruginosa* は消失した。本剤使用前 (3 月 29 日) および使用后 (4 月 19 日) の検査成績はそれぞれ赤血球 348→380 万, Hb 9.3→10.1 g/dl, Ht 31.0→34.4%, 白血球 10,200→9,800, 血清総蛋白 7.4→7.0 g/dl, S. GOT 12→13 単位, S. GPT 3→2 単位, Al-Phos. 5.7→7.2 単位, 総コレステロール 222→194 mg/dl, 尿素窒素 24.7→17.6 mg/dl, 検尿上蛋白 (±)→(-) で本剤使用による肝, 腎機能等の障害は見られず, 「有効」と判定した。

症例 8 M. I. ♂, 50 歳, HAMMAN-RICH 症候群

職業 新聞販売業。

体動時息切れ, 心悸亢進, 軽い咳嗽, 喀痰を訴え, 胸部 X-P 上両肺中心部ならびに両下肺野に蜂窩状陰影, 両肺上側方部にやや大きなう胞形成を認め, 原因不明の肺線維症として入院。ばち状指, 口唇および爪床のチアノーゼ著明。肺機能検査上 A-C Block 症状著明。喀痰中細菌検査上常に Normal flora ではあったが, 試みに KW-1062 1 回 40mg, 1 日 3 回筋注を 12 日間連用したが, 症状の改善は認められなかった。「無効」と判定した。

本剤使用前後に血液像, 肝, 腎機能を検査し得た症例において上述したごとく異常値の出現を認めず, また皮膚発疹, 眩暈および難聴等の自覚所見においても 9 症例に変化を認めなかった。

III. 考按ならびに結語

種々の難治性肺感染症 8 名 (9 症例) に KW-1062 を 1 日 120mg (分 2~3 回), 5~12 日間筋注し, 著効 1, 有効 2, やや有効 3, 無効 3, 有効率 66.7% の結果を得た。

血液像, 肝・腎機能を検査し得た症例ならびに自覚的な観察においても副作用と思われる変化は認めなかった。本剤は難治性肺感染症例には試みるべき薬剤と考えられた。

文 献

- 1) OKACHI, RYO; ISAO KAWAMOTO, SEIGO TAKASAWA, MITSUYOSHI YAMAMOTO, SEIJI SATO, TOMOYASU SATO & TAKASHI NARA: A new antibiotic XK 62-2(sagamicin). I. Isolation, physicochemical and antibacterial properties. *J. Antibiotics* 27(10): 793~800, 1974

CLINICAL EVALUATION OF KW-1062 IN VARIOUS LUNG INFECTIONS

FUMIO NAGAHAMA, SEIJI YAMAMOTO, SHINYA YASUDA,
TAKEJI NAKABAYASHI, TETSUJI KOROKU and TAKAHISA SAITO
Chest Clinic, National Sapporo Hospital, Hokkaido Cancer Center

Eight patients with various intractable lung infections (9 cases) received daily 120 mg of KW-1062 divided into two or three doses by intramuscular route for 5 to 12 days. The effect was excellent in 1 case, good in 2, fair in 3 and poor in 3. The rate of effectiveness was 66.7%. There were no changes attributable to KW-1062 in blood picture or in liver or renal function. Side effects such as impairment of the 8th nerve were not noted.